

《表彰者一覧》

◎集落営農法人の人材確保・定着に向けた現場で実践できるポイントを体系的に取りまとめ

農業経営研究室 主査専門研究員 藤澤 真澄

【事績の概要】

集落営農法人の人材確保について目的に応じた複数のアンケート、ヒアリング調査を重層的に実施し、集落営農法人の人材確保・定着に向けた現場で実践できるポイントとして体系的に取りまとめ提示した。

◎小麦種子検査の発芽試験のための種子休眠打破方法

水田利用研究室 上席専門研究員 田村 和彦

【事績の概要】

本県の小麦奨励品種において、発芽試験前の休眠打破方法として、低温湿潤処理と過酸化水素水処理の適応性を検討し、有効であることを明らかにした。



(左2人目から 田村上席専門研究員、藤澤主査専門研究員)

◎多収で良質な日本麺用小麦品種「ナンブキラリ」の特性把握



水田利用研究室 専門研究員 高橋 祐也
水田利用研究室 専門研究員 柄澤真梨歩
水田利用研究室 技能員 佐藤 洋貴

【事績の概要】

小麦の安定生産を図るため縞萎縮病に強く多収が期待できる小麦新品種「ナンブキラリ」の品種特性及び現地適応性を調査し研究成果として取りまとめた。

◎米の品質・食味に係る収穫時期の関係を明らかにし要望へ早急に対応

生産システム研究室 上席専門研究員 伊藤 信二



【事績の概要】

水稻の主要3品種（「ひとめぼれ」「銀河のしずく」と及び「金色の風」）の収穫時期と品質・食味の関係性を明らかにし品質食味向上に向けた適期収穫の重要性を提示した。

◎現地ニーズを的確に捉えた研究成果により岩手県農業研究センターを広くPR

生産システム研究室 上席専門研究員 山口 貴之



【事績の概要】

超低コスト RTK-GNSS の構築や導入マニュアルを作成し現地で導入しやすいスマート農業技術を確立するとともに、本技術が全国紙面に掲載されるなど当センターの情報発信に貢献した。

◎ぶどう「サニールージュ」の早期ジベレリン処理技術における適正着房数

果樹研究室 専門研究員 佐々木 俊洋



【事績の概要】

ぶどう品種「サニールージュ」の継続的な高品質生産に向けた早期ジベレリン処理技術における適正な着果基準を明らかにした。

◎秋まきたまねぎの生産性を高め収益向上に資する一連の要素技術を開発



野菜研究室 上席専門研究員 横田 啓
野菜研究室 専門研究員 佐々木達史
野菜研究室 技能員 多田 竜馬

【事績の概要】

秋まきたまねぎ栽培において、有望品種と適切な定植時期、施肥体系を提案し、越冬前の生育指標や近年の温暖化に伴う春先の干ばつに対応した畦間かん水の効果を取りまとめるとともに、無人マルチローターを活用した防除の有効性を示した。

◎ピーマンの生産性を高め収益向上に資する要素技術を開発



野菜研究室 専門研究員 松橋 伊織
野菜研究室 主査専門研究員 小田島 裕
野菜研究室 野菜研究室長 山田 修

【事績の概要】

ピーマンの夏秋雨よけ栽培において低コスト環境制御技術の導入による増収効果を明らかにするとともに、尻腐れ果混入を回避できる当面の対策を提案した。

◎りんどうの生産性を高め収益向上に資する要素技術を開発



花き研究室 主査専門研究員 小田島 雅

【事績の概要】

りんどうの千鳥疎植栽培技術について軽労効果及び増収効果を明らかにするとともに、同栽培法を適用後の株への好影響を研究成果として取りまとめた。

◎陸前高田市大規模園芸施設のいちご生産力向上に貢献



南部園芸研究室 主査専門研究員 高橋 大輔

【事績の概要】

陸前高田市の大規模園芸施設においていちごの栽培管理の改善指導を行い単収向上に貢献するとともに、現地の栽培実態に対応した閉鎖型高設栽培システムの改修方法を研究成果として取りまとめた。

◎肥料高騰下でも有利となる水田転換畑における春まきたまねぎ栽培でのリン酸基肥及び窒素追肥の増肥効果

土壌肥料研究室 専門研究員 小野寺 真由

【事績の概要】

水田転換畑における春まきたまねぎ栽培において、肥料高騰下においても有利となるリン酸基肥及び窒素追肥による収益の向上を明らかにした。

◎長年(34年間)にわたり土壌・作物栄養分析業務(補助)に尽力

土壌肥料研究室 会計年度任用職員 伊藤 静子

【事績の概要】

旧園芸試験場から現センターに至る34年の長きにわたり本県の土壌・作物栄養分析業務に携わり円滑な業務遂行に貢献した。



(左2人目から 小野寺専門研究員、伊藤会計年度任用職員)

◎岩手県におけるクモヘリカメムシの斑点米被害の特徴及び発生実態と当面の対策を提示

病理昆虫研究室 主査専門研究員 吉田 雅紀

【事績の概要】

水稻害虫のクモヘリカメムシが沿岸部を中心に発生が拡大している実態及びその被害内容を解明するとともに、その防除対策を提示した。

◎本県で発生するトマトうどんこ病菌の感染好適条件の解明及び AI 病害発生予測システムによるリスク判定に基づく防除の効率化で薬剤散布回数半減を実証

病理昆虫研究室 上席専門研究員 岩館 康哉

【事績の概要】

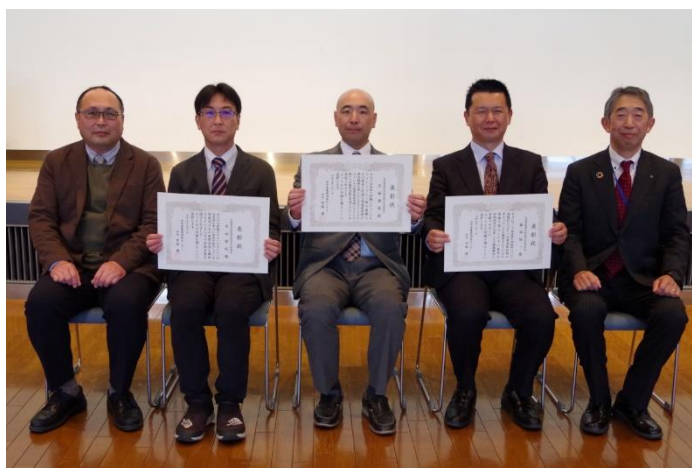
本県で問題となっているトマトうどんこ病の菌種とその感染に好適な温湿度条件や潜伏期間を明らかにするとともに AI による病害発生予測システムを取り入れ散布回数を半減できることを実証した。

◎温暖化による早期発生で被害が拡大していたリンゴ黒星病及び褐斑病の防除対策を提示

病理昆虫研究室 上席専門研究員 猫塚 修一

【事績の概要】

リンゴ黒星病と褐斑病について温暖化により一次感染開始期が早まったことを解明するとともに、現場で導入しやすい春季の防除体系の見直しなど課題解決に貢献した。



(左2人目から 吉田主査専門研究員、岩館上席専門研究員、猫塚上席専門研究員)

◎令和4年度に多発したキンモンホソガの発生要因解析



病害虫防除課 技師 及川 優介

病害虫防除課 主査 藤田 章宏

【事績の概要】

令和4年度のりんご樹園地におけるキンモンホソガの多発要因を解析し、通常年には出現しない第四世代成虫の発生を明らかにした。

◎令和4年度産水稲の特徴的な斑点米被害の要因解析



病害虫防除課 技師 田村恵里佳

病害虫防除課 技師 菅野 夢

病害虫防除課 主査 斎藤真理子

【事績の概要】

斑点米カメムシ類について注意報や防除速報を適期に公表することにより斑点米被害を平年並に抑えるとともに、頂部加害粒が多いという過去に例のない発生要因を明らかにした。